磐高 18 回卒の皆様へ

五十嵐健治画伯が第 83 回新制作展に 16 回目の入選をしました。

新制作展は昭和 11 年（1936 年）当時の社会状況が戦時体制に傾斜しつつある頃、自由と純粋さを求めて立ち上がった、小磯良平や猪熊弦一郎など若き 9 名の画家により結成されました。昭和 14 年に佐藤忠良ら 7 名の新進彫刻家の参加により彫刻部が設けられ、戦後に丹下健三、前川國男ら 7 名で建築部（現：スペースデザイン部）そして日本画部が合流。現在は、絵画、彫刻、スペースデザインの 3 部門で今年 83 回展を迎えました。

10 月 30 日、午前 11 時より六本木の黒川紀章設計の国立新美術館にて、在京会の 7 名が五十嵐画伯の案内で 3 部門を鑑賞しました。

それぞれ興味深いものでした。特に東京スカイツリーのデザインした元東京芸大学長の澄川喜一氏の彫刻が印象的でした。

左より（敬称略）猪狩恒男、高木佑一、藁谷友治、原雅英、五十嵐健治画伯、金成幸伸、添田稔、高木憲爾

ご覧のように、入選作は 200 号の大作で、「巣領域：蜂を育てるところ」という表題でしたが、蜂の成長過程を描いたものだそうです。

このところ、蜂をモチーフにした絵が入選しておりますが、少しづつ変化してるように見受けられます。

鑑賞後、午後 1 時より湯島の飛鳥にて入選祝賀会？の飲み会をしました。

五十嵐君は山形大学工学部を卒業後、栗田工業に入社し中近東のプラント建設に 20 年以上携わってきましたが、イラン、イラク戦争を経験、九死に一生を得たことから人生観が変わり、中途退職し、武蔵野美術大に入学、画家の道を歩んでます。奥様がよく了解したとの話になりましたが、彼より中近東の政治問題など高尚な話題になりました。高木憲爾君が磐高時代に裸婦の絵を描いたことなど思い出され、午後 4 時の散会まで楽しく過ごすことができました。

なを、来年 2 月 3 日より 1 週間に銀座にて五十嵐画伯の個展を催す予定になってますので、近くになりましたら、ご案内を差し上げます。（原　雅英記）